

# 6年学年だより Believe

令和8年2月6日  
第6学年だより  
第31号  
今週の文責：古閑 啓之

来週はいよいよ学習発表会です。今号では、各チャプターの見どころや、「バケモノの子」に込めた担任としての思いについて、お届けします。

## チャプターごとの見どころ

チャプター	チャプター名	一言コメント
C1	宋師様のお告げ	劇のオープニングです。メインテーマである「祝祭」をBGMに一気にバケモノの世界へいざないます。各登場人物のキャラクターをつかませる演技に注目です。
C2	熊徹と九太の出会い	蓮（九太）が熊徹と出会います。警察に追われる九太は熊徹の後を追って渋天街へ。まだ幼いながら闇を抱える蓮を描きます。
C3	渋天街	人気者で人格者の猪王山と嫌われ者で乱暴者の熊徹の対比を描きます。九太が熊徹にシンパシーを初めて感じる場面。フロアも一緒になって戦いを盛り上げます。
C4	修行	前半のコミカルな修行の様子と、後半の本音を語る様子の対比がいい場面。物語のキーワードである「胸の中の剣」という語句が初めて登場します。
C5	強くなる	幻の母のアドバイスで熊徹の真似を始める九太。真似をする様子は低学年の子たちの笑いを誘いながら、熊徹に親代わりとしての心境の変化を表現する場面です。
C6	新しい旅	前半のクライマックス。青年の九太に成長します。修行を重ね、強くなった九太の胸には「このままでいいのか？」という迷いが……。歌「新しい旅」で締めます。
C7	楓との出会い	ここから物語も後半へ。キーパーソン「楓」と出会います。男子高生や女子高生はオーディションでも人気だった役です。
C8	本当の父	楓が悩みを打ち明けたり、蓮（九太）が父と再会したりする場面。登場人物3人で場面の雰囲気を作り上げていきます。
C9	胸の闇	九太が自分の胸の中の闇を自覚して、葛藤する場面。感情をたかぶらせた演技が連続する場面のため、子どもたちの表現力に注目してください。
C10	決戦	宋師を決める熊徹と猪王山の決戦に九太も駆けつけます。そして、一郎彦の闇がついに現れます。ここから物語は最終盤に向かっていきます。

C11	胸の中の剣	一郎彦のことをほっておけない九太と、神に転生してまで、九太の力になりたいと言う熊徹。しっとりとした温かい気持ちになれる場面を目指します。
C12	バケモノの子	いよいよクライマックス。九太とくじらに姿を変えた一郎彦との戦いが描かれます。「胸の中の剣」に熊徹自身が姿を変えて、九太の力になります。歌「バケモノの子」が物語の最大のテーマに迫ります。
C13	エンドロール	新しい生活へ向かう蓮（九太）。その胸の中には熊徹という剣を持ちます。新しい旅立ちを迎える子どもたちと蓮（九太）を重ねて見てほしい最後の場面です。
	カーテンコール	ここまで頑張った子どもたちに大きな拍手を、どうぞよろしくをお願いします。

## 「バケモノの子」に込めた思い

### 「家族愛」

一人ぼっちで心に闇を抱える蓮（九太）、一人で強くなってしまった乱暴者の熊徹。二人が出会い、師弟として修業の日々を重ねていくことで、そこには師弟愛が生まれ、いつしかそれは親子愛にも近い思いとなります。いつもいがみ合っているように見えて、お互いが支え合い大きく成長していきます。

私たちが子どもたちを思う思い、そして何より保護者の方々が子どもたちを思う思いは、不変です。子ども（蓮・九太）がピンチのとき、力になってあげたいという気持ちや行動は、すべての親に共通する気持ちなのではないでしょうか。

### 「信頼・素直」

はじめは素直になれなかった九太は、徹底して熊徹の真似をすることで強くなります。教えることができない熊徹もまた、相手に合わせることを覚えた九太に教えを請い、強くなります。一方、品行方正で信頼も厚い猪王山は、一郎彦に出生の秘密を隠し通すという嘘のせいで、一郎彦を苦しめてしまいます。

誰かを信頼したり、誰かから信頼されたりすることで、自分は一人じゃないと思えます。素直でまっすぐな姿を周りの人々は応援してくれます。そして、そんな信頼する相手、自分を応援してくれる仲間への感謝の気持ちが、子どもたちのこれからの人生を豊かにしてくれるのではないかと考えています。

### 「心の闇（悩みや不安）に立ち向かう強さ」

蓮は幼くして一人ぼっちになり、心に闇を抱えます。一方、一郎彦も自分は本当に猪王山の息子なのだろうか悩み続け、最後は心の闇に取り込まれてしまいます。蓮は、楓や周りの人のおかげで闇を拒絶し、一郎彦の闇も自分事として捉えて、クジラとなったその闇と対峙します。

誰もが、悩みを抱え生きています。これから成長していく子どもたちは、様々な悩み・不安を抱え生きていくことでしょう。ただし、それは自分だけ、一人だけではないのです。そして、その悩みや不安に立ち向かう勇気をもって生きていってほしいと、私たちは願っています。

そして、もう一つのテーマが「新しい旅立ち」です。戦いを終えた蓮（九太）は、人間の世界に戻り、心に熊徹という剣を携えて新しい目標へと向かいます。卒業を前に、新しい旅を始めようとする子どもたちを、わたしたちは子どもたちの胸の中の剣になって、応援することしかできません。卒業を控えた子どもたちへのそんなエールを込めました。